

## 令和6年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名：新潟県

農業委員会名：長岡市農業委員会

## I 農業委員会の状況(令和6年4月1日現在)

## 1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和5年7月20日

任期満了年月日 令和8年7月19日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	24	24
認定農業者	—	12
認定農業者に準ずる者	—	7
女性	—	5
40代以下	—	3
中立委員	—	2

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	52	52	12

## 2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	5,752
農業経営体数	3,590

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	4,979
女性	1,276
40代以下	216

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	833
基本構想水準到達者	136
認定新規就農者	6
農業参入法人	6
集落営農経営	47
特定農業団体	0
集落営農組織	47

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	普通畑			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	16,500	1,500	—	—	—	18,000

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

## II 最適化活動の目標

### 1 最適化活動の成果目標

#### (1) 農地の集積

##### ①現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)/(A)	
	18,000	ha	12,204.00	ha	67.8	%
課題	平場の農地においては、概ね80%から90%が担い手へ集積されているが、中山間地域においては、高齢化による離農や米価下落等に伴う法人の規模縮小や解散など担い手不足が進み、集積率が10%から40%台で推移しており、今後も集積率は下がる傾向にあることから如何に中山間地域の集積率を向上させるか対策を講ずることが重要である。					

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

##### ②目標

農地の集積の目標年度	令和 14 年度	集積率	90	%	
今年度の新規集積面積	734	ha	農地面積(C)	18,000	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	12,989	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	72.2	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

#### (2) 遊休農地の解消

##### ①現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況					
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積				
		うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積			
	2.0	ha	2.0	ha	0	ha
課題	兼業農家の高齢化や離農が進んでいる。特に中山間地においては農業就業者の高齢化と後継者不足、さらには耕作条件不利地が多いことから遊休農地が増加傾向にあり、これら諸課題の解決策を模索し農地の有効利用に向けた対策を講ずることが急務である。					

##### ②目標

###### ア 既存遊休農地の解消

###### a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	2	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	0.4	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

###### b 黄区分の遊休農地の解消

令和5年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	0	ha
--------------------------	---	----

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	
-------------------------	--

###### イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0.9	ha
---------------------------	-----	----

(3) 新規参入の促進

① 現状及び課題

現状	令和3年度新規参入者	令和4年度新規参入者	令和5年度新規参入者
	0 経営体	2 経営体	4 経営体
	0 ha	1.4 ha	6.5 ha
課題	農業従事者の高齢化による担い手不足解消のため、地域の実情に応じた多様な担い手の育成が急務であるとともに農業参入していた企業の撤退が増加傾向にあることから、新たな担い手の形態や育成・確保について模索していく必要がある。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

② 目標

権利移動面積	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
	433 ha	521 ha	626 ha	527 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			60.0 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1) 推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	24 人
		農地利用最適化推進委員の人数	52 人

(2) 活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
12月～2月	①②	目標地図作業、次期作に向けた農地集積、遊休農地の解消、担い手の後継者問題等を話し合う地域の会合に参加し、情報収集を行う。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数		1 回	
開催時期	12月もしくは2月	相談会名	
参加者数	1名から数名	開催場所	
相談会の内容	新潟県新規就農支援センターが開催する新規就農チャレンジフェアに農業委員数名が参加する。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入  
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)